

茨城大学学報

第281号

平成20年10月～平成20年11月



六角堂（五浦美術文化研究所）

INDEX

- ◆講演会「地球温暖化防止とエネルギーの持続可能性」を開催
- ◆阿見町・茨城大学・あみ自然再生ネットワーク共催公開講演会を開催
- ◆免許更新講習会を開催
- ◆名誉教授称号授与式
- ◆観月会2008を開催
- ◆図書館接遇研修会を開催
- ◆第4回学生国際会議を開催
- ◆第59回茨苑祭を開催（テーマ：疾走）
- ◆永年勤続者を表彰
- ◆第5回学内交流会

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ 講演会「地球温暖化防止とエネルギーの持続可能性」を開催

茨城大学、茨城県、茨城産業会議が主催となった、講演会「地球温暖化防止とエネルギーの持続可能性」が10月2日（木）、約130名の市民らが参加し開催されました。

内閣官房参与（地球温暖化問題担当・前気候変動担当政府代表兼地球環境問題担当特命全権大使）の西村六善氏ら3名の講師を迎え、国際的な温暖化対策の動向についての講演が行われました。

西村講師は、演題「温暖化交渉の展望と日本の生きかた」の中で、自身が外交交渉の最前線に立った洞爺湖サミットに触れ、「各国の代表者が温暖化について前向きに議論したことは、非常に大きな意味があった。主要国が良い解決に向けて動き始めている」と語りました。また、日本の将来のエネルギー供給のあり方についての考えを述べ、化石燃料に依存しない、持続的な発展を維持できるシステムの構築やエネルギーの自立性の確保の必要性を述べました。

また、東京大学大学院工学系研究科（兼東京大学サステナビリティ研究機構（IR3S））の花木啓祐教授は「低炭素地域の形成への戦略」をテーマに、茨城大学工学部梶谷修一教授は「新エネルギー技術開発」のテーマでそれぞれ講演し、今や深刻な問題となった地球温暖化対策の在り方について参加者は熱心に耳を傾けていました。



約130名の市民らが参加し開催された講演会

◆ 阿見町・茨城大学・あみ自然再生ネットワーク共催公開講演会開催

「農家の元気で子供が変わる、地域が変わるー地産地消の学校給食・愛媛県今治市の経験からー」

10月4日（土）、阿見町の本郷ふれあいセンターにおいて、阿見町・茨城大学・あみ自然再生ネットワーク共催による公開講演会が開催された。阿見町と茨城大学が連携協定を締結してから、毎年開催してきた共催事業も今年で3回目となりました。

今回の講演会では、学校給食を活用した地産地消の推進に先駆的な役割を果たし、「地産地消」、「食育」、「有機農業の推進」を3本柱にした条例まで制定するに至った愛媛県今治市役所から政策研究室長の安井孝氏を招き、「学校給食を活用した地産地消の推進」に至った背景および経緯とその目覚ましい成果について講演がありました。

安井氏の話術の巧みさに引き込まれ、抱腹絶倒のうちに「堅い」イメージの役場の取り組みが理解できるというすばらしい内容でした。

一般市民を中心とする当日の参加者は約80名で、講演会終了後には同じく本郷ふれあいセンターの会議室に場所を変え、安井先生を囲んでの懇談会を開催しました。

引き続き懇談会に参加した31名は、今治市の取り組みに関する技術的な解決策や裏話など、「講演会」では聞けない「具体的な話」を聞くことができました。

関係者はこの催しを通し、今後も開催を予定している阿見町と茨城大学農学部でのワークショップをより有意義なものにしたいと語っていました。（この事業は平成20年度茨城大学社会連携支援経費の一環として実施しています）



なごやかな雰囲気の中での懇談会

◆ 教員免許状更新講習シンポジウム開催

10月5日（日）「大学と地域が育てる教員免許状更新講習」と題し、県内の現職教員と地域の人々を対象に、更新講習の意義と内容について理解を求めためシンポジウムを開催されました。

池田幸雄学長、田代尚弘教育学部長に続き、文部科学省中野宏栄更新係長からの挨拶の後、第一部では、「茨城大学の教員免許状更新講習が目指すもの」と題し、尾崎久記教育学部副学部長が取り組み状況の報告を行った。続いて茨城県教育委員会から取組状況の報告がありました。

また、平成21年度教員免許状更新講習プランについて早川唯弘教育学部教員免許更新制ワーキンググループから報告がありました。

続く第二部では中野文科省更新係長、山本三喜男水戸市立浜田小学校教諭、尾崎副学部長をパネリストに迎え、教員免許状に関する課題等を提起しながら、意見交換を含めたパネルディスカッションが行われました。

全学校種に渡る現職教員、近隣の大学等及び本学関係教職員を含めて約90名の参加者があり、それぞれの立場から課題解決の方策を見いだすための活発な意見交換が行われ、平成21年度から実施する教員免許状更新講習を企画・立案する上で有意義なシンポジウムとなりました。



パネルディスカッションの様子



◆ 茨城大学名誉教授称号授与式

平成20年9月18日（木）開催の教育研究評議会において、茨城大学名誉教授として、下記の先生方2名が決定され10月8日（水）学長室に於いて関係者ご列席のもと、名誉教授称号授与式が執り行われました。

記

元職名	氏 名	元職名	氏 名
学 長	まき ち りゅうざぶろう 菊 池 龍三郎	副 学 長	やま がた こう いち 山 形 耕 一



前列左から菊池龍三郎名誉教授、池田幸雄学長、山形耕一名誉教授

◆「観月会2008」を開催＝茨城大学五浦美術文化研究所＝

茨城大学五浦美術文化研究所で毎年開催されている「観月会」が今年も10月25日（土）より茨城大学五浦美術文化研究所にて開催されました。初日には、「天心邸茶会」と題して、鈴木宗博氏（岡倉天心遺蹟顕彰会）による野点と、鈴木誉志男氏（サザコーヒー会長）による珈琲の提供とレクチャーがあり、訪れた人たちはそれぞれの趣向による茶会を楽しみました。

同時に開催されている「六角堂展～茶の心、珈琲の心～」は、藤本均定成氏（現代美術・陶芸家）により、天心の精神を現在において視覚化しようという試みで、11月24日（月）まで開催されました。



天心邸前での野点茶会



天心邸前和室での珈琲のお手前

◆ 茨城大図書館で初の接客研修を開催

平成20年10月28日、茨城大学図書館（水戸キャンパス・松田智明館長）では、利用者の満足度を高めるための接客研修を開催しました。

これまで大学での地域開放にこたえるため、図書館の一般開放や企画展示のなど地域住民向けのサービスを行ってきたが、更なるサービス向上のため、図書館職員向けの接客研修を企画したものです。

図書館単独でプロの講師を招いて行うのは今回が初めての試みでした。

当日は、分館の職員を含む計10名の職員に対して3時間にわたって接客スキルの講義や利用者対応、電話対応などの実習を行いました。

講師は、民間会社や公共機関の接客指導の専門家である(有)オフィス・マルチェロの田中路子氏を招きました。

研修終了後、参加者からは「接客の大切さ、基本を学ぶことができた。明日からすべて実行することは難しいが、少しずつ実践してゆきたい。」との感想がありました。

また、講師からは、「今後統一感のある対応の実現にむけて取り組んでほしい」などの課題をいただきました。

茨城大図書館では、研修の成果を発展させるために、早速組織として統一した接客マニュアルを作成することにしました。



◆ 第4回学生国際会議を開催

国内では唯一の学生主催による国際会議「第4回茨城大学学生国際会議（ISCIU4）」が11月1日、2日の両日にわたり開催されました。この会議は、茨城大学大学院生らが中心となり、担当教員のアドバイスを受けながら組織、企画、財務などを行い開催されたもので、学生の自主性を育てるだけでなく、国際的に通用する人材育成という点においても非常に効果の高いものとして、毎年好評を得ています。

今年は国外だけでなく国内からも参加者を募った結果、全体で100件の発表申し込みのうち、海外から米国、中国、インドネシアなどの国から19件の応募がありました。また、国内で初めて、国際会議において「高校生、高専の発表部門」を設置したことは特筆されます。

参加した県内のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校である水戸第二、竹園高校や茨城高専、群馬高専、福島高専の学生らは「日本で海外の学生を迎え、英語で発表できる機会が与えられたのは良い刺激になった」と充実した手ごたえを感じていました。

関係者らは、早くも来年の開催に向けて、さらに規模を広げ内容を充実したものにしようと気持ちを新たにしていました。



特別講演の様子

◆ 第59回茨苑祭を開催（テーマ：疾走くしっそう）

11月15日（土）～16日（日）、茨城大学水戸地区構内において、第59回茨苑祭が開催されました。今年度の茨苑祭は「『今』を全力で生き、これから未来に駆けて行く大学生の躍動感」の意味を込めた「疾走くしっそう」をテーマとして掲げ、参加学生が一丸となって臨みました。

ステージでは、茨城県出身のお笑いタレントアントキの猪木を招いたトークライブのほか、多彩なジャンルの演奏・パフォーマンスが演じられました。また、毎年恒例の各参加団体による模擬店や展示・発表、献血キャンペーン等に加え、これから茨大の受験に臨むであろう高校生を対象とした応援企画や、来場者の方に大学の講義を楽しく体験してもらう公開講座、小中学生に科学の楽しさを知ってもらうための実験をふんだんに行うサイエンス・ショーといった、地域市民の皆様にも楽しんでいただけるような企画も多く催されました。開催2日目は少々ぐずついた天候となってしまいましたが、企画には大きな影響はなく、フィナーレを飾る花火の歓声に包まれて無事終了しました。



多くの来学者でにぎわう水戸キャンパス

◆ 永年勤続者表彰

平成 20 年度本学永年勤続者表彰式が、去る 11 月 21 日（金）事務局会議室において、学長出席のもとに執り行われました。

また、表彰式終了後懇談会が開催され、受賞者からの思い出話や今後の抱負等が披露され、和やかなうちにお開きになりました。

なお、被表彰者は次の方々です。

学長表彰

施設課施設計画グループ専門職員	佐藤 和男
施設課施設管理グループ専門職員	高井 裕高
教育学部附属小学校 教諭	大津 崇
教育学部附属小学校 教諭	佐藤 義明
教育学部附属中学校 副校長	大録 匡行
教育学部附属中学校 教諭	大貫 弘敏
教育学部附属特別支援学校 教諭	小倉 栄一



学長と今年度の永年勤続表彰を受けたみなさんの記念撮影

◆ 第5回学内交流会開催

11月25日（火）茨城大学水戸キャンパスにおいて、第5回学内交流会が開催されました。近年の学内の施設整備等のため、開催が延期されていた交流会ですが、今回は17年度の阿見キャンパス以来の開催となりました。

第1部、第2部を通じて参加者は目標を上回る101名の参加がありました。

第1部の前に行われたキャンパスツアーでは、今年2月にできた学生センター玄関前を起点として、整備の終わった人文学部、教育学部、理学部の水戸地区各学部の各施設を見学しました。

理学部インタビュースタジオで行われた第1部の交流会では、池田幸雄学長のあいさつの後、水戸地区3学部の代表者による研究紹介および学部改革の紹介が行われ、参加者は他学部の研究紹介等、普段は聴く機会のない話を興味深く聴いていました。

また、第2部の懇親会では、あまり顔を合わす機会のない教員と職員も歓談する光景がみられ、親交を深めていました。

終了後のアンケートの中にも、他学部の研究内容に触れることができたり、あまり訪れる機会のない施設も見学できてよかったなどの感想のほか、同じ職場にいながら言葉を交わす機会がなく、名前しか知らなかった教員と打ち解けるきっかけが出来てよかったという事務職員の感想もありました。



人文学部屋上よりキャンパスを視察する参加者たち



熱心に耳を傾ける参加者たち